

6-3 紀伊半島南東沖の地震活動（1993年2月～3月）

Seismic Activity south east off the Kii peninsula
(February – March, 1993)

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division
Japan Meteorological Agency

1993年2月2日頃、紀伊半島南東沖で久しぶりに小規模な群発地震活動が始まり、2月中ごろからしだいに活発になった（第1図）。3月4日にM3.1（深さ42km，無感）の最大地震が2個発生したが、その後地震回数は減少し、3月中には終息した。3月22日までに東海OBS-1に記録された地震の数は70個、その内震源の決定された地震数（参考震源も含む）は21個だった。

最近の活動では1981年に今回の活動域のすぐ北西部分でM3クラスを含む小規模な群発地震活動^{*1)}があり、また1986年に今回の活動域の北東の場所でM4.3の地震を含む群発地震^{*2)}があった（第2図）。今回の活動域付近では、1990年以降M3.0以上の地震はなく、静穏な状態が続いていた。

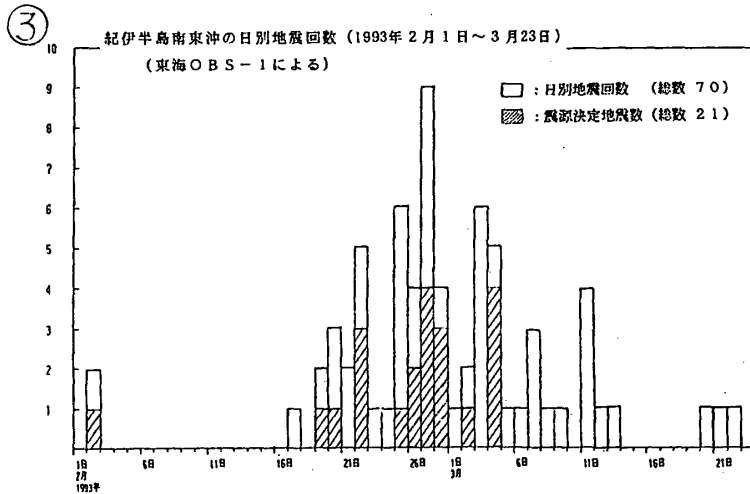
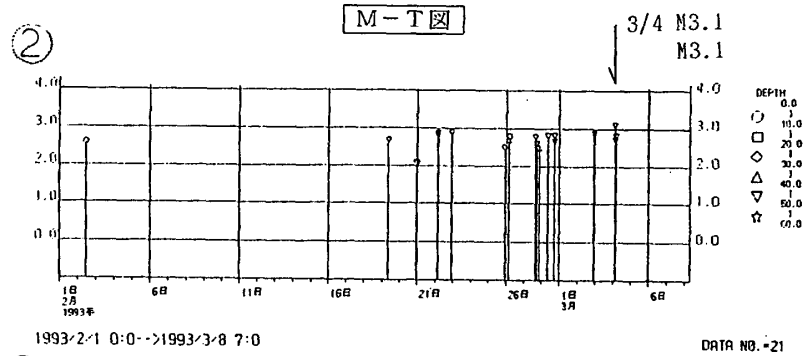
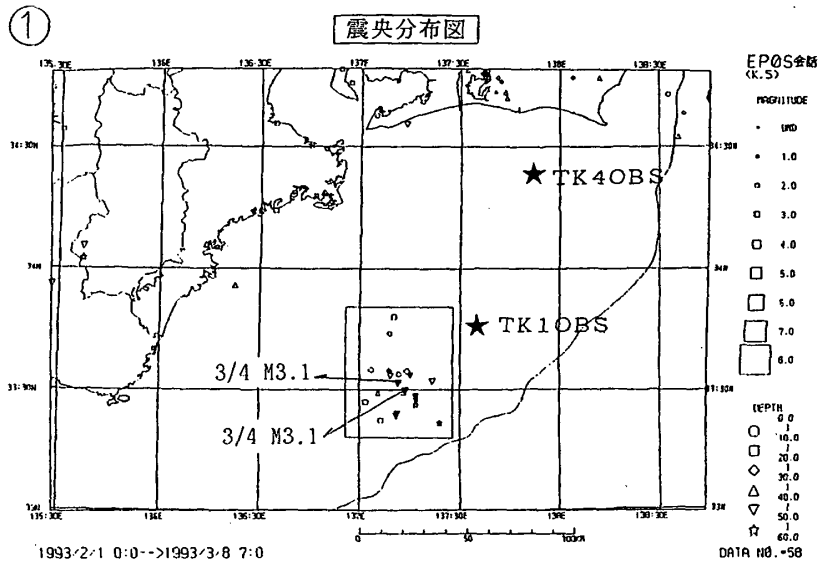
過去の活動を見ると今回の活動域を含む志摩半島から南南東に伸びる帯状の領域では、1944年東南海地震の余震が多数発生し、1966年1月にはM5.4とM5.9の地震¹⁾が発生した（第3図）。また1944年東南海地震の5年前、1939年にもこの辺りでM5クラスの地震2個が発生している。この様に、この場所は東海地震の予想震源域の外ではあるが、フィリピン海、ユーラシア両プレート境界のトラフに沿った地域で地殻の動きに敏感な所と考えられ、これからも注意深く見守る必要がある。

*1) 連絡会報第27巻参照。

*2) 連絡会報第36巻参照。

参 考 文 献

- 1) 気象庁観測部地震課：東海地方の地震活動（1977）。



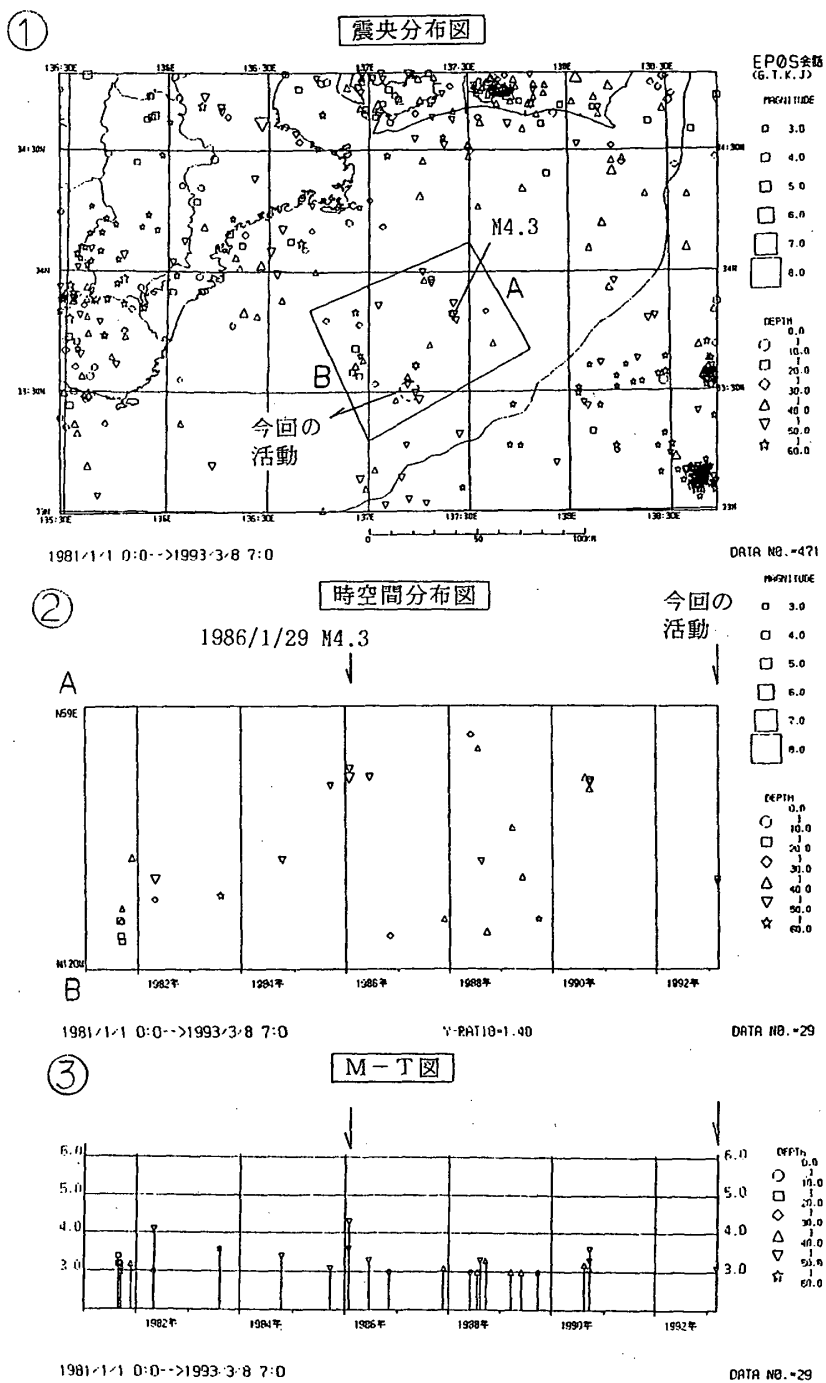
暫定 : 1992年12月 →

第1図 紀伊半島南東沖の地震活動 (1993年2月1日～3月8日)

- ① : 震央分布, ② : M-T図,
③ : 日別地震回数 (東海沖海底地震計 (TK1OBS) による)

Fig.1. Seismic activity south east off the Kii peninsula
(February 1-March 8, 1993).

- ① : Epicentral distribution, ② : M-T diagram,
③ : Daily number of earthquakes observed by the ocean bottom
seismograph (TK1OBS) off Tokai area.



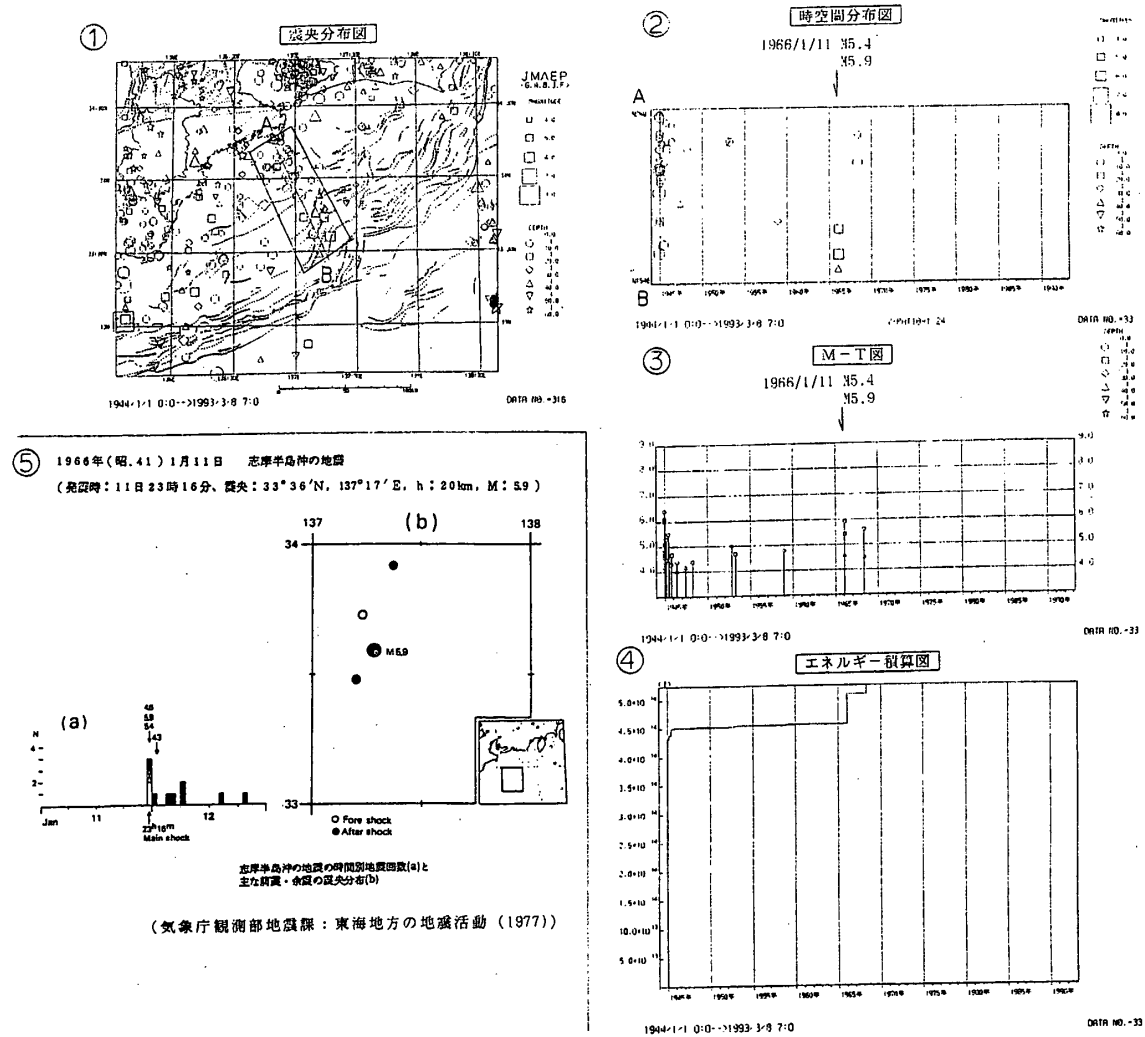
(気象庁のほか、東京大学・名古屋大学・防災科学技術研究所のデータ使用)

第2図 紀伊半島南東沖の地震活動 (1981年1月1日~1993年3月8日)

①: 震央分布, ②: 時空間分布図, ③: M-T図

Fig.2 Seismic activity south east off the Kii peninsula (January 1, 1981-March 8, 1993).

①: Epicentral distribution, ②: Space-time plot, ③: M-T diagram.



第3図 紀伊半島南東沖の地震活動（1944年1月1日～1993年3月8日）

- ①：震央分布，②：時空間分布図，③：M-T図，④：エネルギー積算図，
 ⑤：志摩半島沖の地震（1966年1月11日；M5.9）

Fig.3 Seismic activity south east off the Kii peninsula (January 1, 1944–March 8, 1993).

- ①：Epicentral distribution，②：Space-time plot，③：M-T diagram，④：Cumulative seismic energy，
 ⑤：the Earthquake off the Shima peninsula (January 11, 1966; M5.9).